

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた戦国武将

一豊と掛川

その8

一豊の良き相談相手

仁藤 真如寺の在川謙昨和尚



(掛川市仁藤の真如寺)

在川和尚を掛川に呼び寄せる

一豊が、小田原の北条攻めで戦功をあげ、長浜2万石から掛川5万石の城主になったのは、天正18年(1590)でした。

一豊は、駿府沓谷にある長源院の七世住職・在川謙昨和尚を掛川に呼び寄せ、仁藤に真如寺を建て開山します。在川和尚は一豊の伯父にあたり、一豊の相談相手として掛川の城下町づくりや治世にいろいろな助言を与えていたといわれています。

慶長5年(1600)

大きな転機となる和尚の助言

一豊は、会津の上杉景勝を征伐する戦いのため、掛川を出陣することになります。これは、後に一豊が土佐20万石の領主に出世するきっかけとなる、関ヶ原の合戦につながる重要な出陣となります。

当時、武将たちは軍師に出陣の日の吉凶を占わせていました。戦いは運不運が左右し、明日の命が不安定だったこの時代、運勢にすぎる意識が強かったのでしょう。一豊も、出陣の日の7月3日を占わせたところ、「凶」と出



一豊軍旗「無」一字旗
(財)土佐山内家宝物資料館 所蔵

ました。そこで、3日の朝早く一豊は手槍を持って真如寺に出かけ「いかにすべきか」と在川和尚に尋ねました。和尚は、「小国(掛川)に帰ると思えば、それは『凶』といえるかもしれないが、大國(大勝利を得て新領土に封ぜられる)に移らんとするためには、『吉』である。迷うことなく速やかに出陣すべし」と伝え、必勝のために「無」の字の旗と、「一圓相」の旗を授けました。一豊はありがたく受け

取り、その旗を馬の左右に立てて出陣し、和尚は日坂まで見送っていったと伝わっています。

その3週間後、一豊は山内家の行く末を大きく変える「小山の軍議」に参加して、家康に協力し、掛川城を明け渡し、数年分の兵糧米と人質を差し出すことを申し出ます。



一豊は土佐高知に真如寺を建立し、土佐藩主の歴代菩提寺としました
(高知市の真如寺山門)

(監修：掛川市郷土研究会連絡協議会)